

栄養課業務における変化を病院経営の改善につなげる！

石川 史明

(日本赤十字社 医療技術部 栄養課 栄養係長)

医療経営士3級
認定登録番号：
31410023050315

【目的】

①栄養課におけるスタッフの欠員が栄養課収支へ与える影響の調査。②献立変更が給食委託職員の休暇取得人数へ与える影響を調べる。

【実施方法】

観察研究。645床の急性期病院の栄養課にて実施。栄養課は病院給食管理(厨房業務)と臨床栄養管理部門(栄養指導などの業務)に構成される。厨房業務は全面委託。

①欠員発生月を境に2022年4月～8月(欠員前)と2022年9月～2023年1月(欠員後)の栄養課収支について調査を行なった。調査項目は入院患者数、収益は栄養管理実施加算相当(入院診療実日数×110円)、入院栄養食事指導など、支出は給食用材料費、給与費、時間外労働費などとし、前後比較を行った。

②2023年4月より献立変更を行い献立サイクルを31日から15日へ変更した。2023年3月(献立変更前)、2023年4月(献立変更後)として共分散分析によって休暇取得人数の平均値を比較した。その時の共変量は日勤勤務人数、食数とした。有意水準を0.05としSPSS ver.29を用いて統計解析を行った。

【実施期間】

①2022年4月～2023年1月(10ヶ月間)、
②2023年3月～4月(2ヶ月間)

【考察・結果】

①の結果：入院患者数は欠員前5539人、欠員後6195人であった。食事療養費は不変、栄養管理実施加算相当は4万円増収、入院栄養食事指導料は13万円減収であった。給食用材料費は64万円増加、給与費は245万円減少、時間外労働費は1万円減少した。

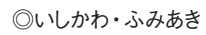
②の結果：休暇取得人数は献立変更前では8.0(6.5,8.0)日、献立変更後では9.0(8.0,10.0)日(中央値,四分位範囲で記載)と有意な差がみられた($p=0.002$)。共変量を調整した後も献立変更は独立して休暇取得人数増加に影響を与えていた(偏イータ二乗0.379、 $p<0.001$)。

①の考察：欠員前後で管理栄養士は8名から7名となっていた。給与費は削減され、時間外労働は増加せず、結果的に人件費コスト削減になったと考えられた(216万円削減)。ムダを減らし、栄養記録の標準化をするなど業務改善によって欠員による損失を補填できたと考える。

②の考察：給食委託要員とも対話を重ね、献立改革によって業務負担が軽減し、休暇取得人数が増加したことが示唆された。医療経営士の視点で病院経営と栄養課業務のバランスを保つことが重要である。

【共同研究者】

高屋和彦(医療技術部長・副院長)、出雲雄大(経営企画戦略室長・院長補佐)



関東学院大学人間環境学部健康栄養学科(現・栄養学部管理栄養学科)卒業後、医療社団法人新都市医療研究会「君津」会南大和病院にて給食業務に従事し、日本赤十字社医療センター(現職、東京都渋谷区)へ入職。